

白井グループ

全54台にバイオ燃料導入へ

4月から本格スタート

月間24klを軽油代替に

廃棄物の収集運搬事業を手がけ、独自の「環境物流ネットワーク」を構築する白井グループ（東京・足立、白井徹社長、東京フロントオフィス・

を開始。順次使用を拡大し、4月までに軽油車両全54台に導入する計画。供給を受けるのは、パーム油を原料とした脂肪酸メチルエステル（FAME）を、軽油に5%混

どを保有している。同社・滝口千明氏は「CO₂排出量をみても、物流面の環境負荷は大きい。負荷の低減への取り組みを、企業の姿勢として示していきたい」と話した。

03・6811・7011）は、ディーゼル車両の燃料をバイオ燃料混合軽油に切り替える。燃料商社のシナモンから、バイオディーゼル燃料（BDF）を軽油に5%混合した燃料の供給を受け、今月からテスト走行

合したB5燃料。2月20日から、試験的に給油を開始する。当初は5台程度で使用し、走行試験でデータを回収しながら燃費などを比較。メンテナンスの状況などを見ながら拡大し、4月から全軽

油車両での使用を開始したい考え。導入車両の一部には、バイオ燃料走行実験中の専用ステッカーを貼付し、活動をアピールする。

バイオ燃料 走行実験中

SHIRAI GROUP

走行車両に貼るステッカー

白井グループでの現在の軽油消費量は、対象車両54台分で、1カ月当たり24キロリットル。ほかにCNG車5台と、LPG車29台な